



【節目で伸びる人】



校長 三橋 国雄

2024年(令和6年)希望にあふれる新しい1年が始まりました。今年のお正月は天気にも恵まれ、とても穏やかに新年を迎えることができたのではないかと思います。元旦の朝はなぜか厳肅な気持ちになります。皆様もご家族そろって穏やかに新しい年を迎えられたことと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

冬休み、それぞれのご家庭でどのように過ごされたでしょうか。年末・年始、年をまたぐ休みとして、冬休み前の朝会で「家族の一員としての手伝いのこと」「お正月を迎えて親戚などの家に伺う場合、親戚などを迎える場合などのあいさつ・礼儀について」などの話をしました。子ども達はどんな経験をしたのでしょうか。

正月は、新しい年を迎えてどのような年にしていくか、一人ひとりがしっかり目標を立てる良い機会だと思います。新年を迎えて、「今年こそ!」と心新たに目標を立てることができていると嬉しいです。

学校は、年度単位で教育課程を考慮するので、3月までが一つの区切りになります。しかし、1月からの3か月間は子ども達にとっては次のステージへの心構えをしっかりとつくる期間です。12月までの自分、今日からの自分、そして4月からの自分、それぞれの姿を明確に意識することが出来るでしょうか。成長するという事は、そういうことが出来るということです。

私の経験から、自分を確かに見つめることができる子どもは、日々成長していることが手応えとして実感できます。学習活動も然り、行動様ももちろん、学習集団のリーダーとして誰もが認める存在になります。一目置かれるという表現が合うと思います。子ども集団とはいえ、そういう雰囲気をもっている子どもは頼もしいものです。私は以前『竹の節目』について書いてある新聞記事を読んだことがあります。

竹はとても成長が早い植物で、節目ごとに伸びていきます。では、この節目は何のために伸びるのか?それは、節目があれば【しなる】ことができるからです。ただ伸びていくだけでは力が加わると折れてしまいます。人でいえば、粘り強い心が柔軟であり、自分で立ち直る力を持っているということです。

前に述べた自分を確かに見つめられる子どもは、こういう節目をもっているのでしょう。だから、しなやかな学校生活を送ることができるでしょう。4月はもうすぐそこです。『自分を振り返る・先の目標をもつ』そういうことを考える時間を過ごしてほしいと強く願っています。

教職員もこの1年をしっかりと振り返り、子ども達が安心して学習や生活ができる学校づくりを行います。子ども達が自己の目標に一步步進んでいけるよう、学校・家庭・地域がしっかりと連携をとり支援していくことができればと思います。本年も変わらぬご支援よろしくお願いいたします。

